2013年5月1日

各　位

会 社 名　株 式 会 社 キ ャ ン バ ス
代表者名　代表取締役社長　河邊　拓己
（コード番号：4575　東証マザーズ）
問合せ先　取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住　眞（電話 055-954-3666）

CBP501開発プロジェクトがNEDO助成事業に採択されました

このたび、当社が提案しておりました「新規抗癌剤候補CBP501合成ペプチドの堅牢な大量製造法開発」が、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の平成24年度「イノベーション実用化ベンチャー支援事業」の助成事業に採択されましたので、お知らせいたします。

CBP501は、当社が独自の細胞周期表現型スクリーニング法を用いて同定した抗癌剤候補化合物で、非天然アミノ酸12残基から成る合成ペプチドです。悪性胸膜中皮腫及び非小細胞肺癌を対象に臨床第2相試験の結果が既に得られており、当社は次相の臨床第3相試験を計画しておりますが、その開始前に、薬事承認後を見据えたCBP501大量製造法の実用化開発を実施する予定です。
この実用化開発に対し、このたび、NEDOからの助成が決定いたしました。

現在、CBP501について当社は製薬企業等との提携に向けたアライアンス活動を進めており、今後の開発については、提携先を確保したうえで次相の臨床第3相試験を開始する予定です。

なお、この助成事業の期間は2013年4月30日から2014年2月20日で、当社は、本実用化開発に必要な開発費である助成対象費用の3分の2に相当する金額（最大約1.2億円）を受領する予定です。
同助成事業の詳細は、NEDOウェブサイト http://www.nedo.go.jp/koubo/CA3_100032.html をご参照ください。

本助成金は次年度（2014年6月期）に受領する予定のため、本年度（2013年6月期）の業績予想には変更がありません。

以　上

《用語解説》

※1　CBP501

CBP501は、細胞周期G2チェックポイントに着目した細胞周期表現型スクリーニングを用いて同定したペプチド型化合物です。G2チェックポイントのシグナル伝達経路阻害によるDNA損傷修復抑制作用ならびにカルモデュリン作用調節によるプラチナ細胞内濃度上昇を介したDNA損傷増強作用により、2つのメカニズムを通してシスプラチンに対する癌細胞感受性を増強させます。
CBP501については、悪性胸膜中皮腫を対象とする臨床第2相試験において、主要評価項目が達成されたことを含む良好な試験結果を、2012年6月開催の米国臨床腫瘍学会（ASCO）年次総会で発表いたしました。また、非小細胞肺癌を対象とする臨床第2相試験に関しては、2013年4月に、本剤の特定患者集団における顕著な効果を示唆する速報結果を公表しています。さらに、プラチナ抵抗性卵巣癌を対象とする臨床第1相試験（拡大コホート）においても有望な抗腫瘍活性が示されています。